



教育目標

- げんきな子
- よくかんがえる子
- なかよくする子

港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan Kindergarten

6月園だより

令和4年5月27日

May 27, 2022

園長 河合 晴美

Principal

Harumi Kawai



心地よい挨拶から

園長 河合 晴美

5歳児がアズノの木を見上げ、実が色づくのを楽しみにしています。3、4歳児は、親子活動で蒔いた種から芽が出たことを発見し、大きな喜びを感じています。

先日は、4、5歳児で有栖川宮記念公園まで園外保育に行くことができました。5歳児がやさしく4歳児をリードする中で、道路脇で勤務している警察の方に「こんにちは」「こんにちは」と挨拶を交わす微笑ましい姿が見られました。はじめは、警察の方から声を掛けられたことがきっかけとなりましたが、次々に現れる警察の方々に向かって、自ら声を掛けるようになりました。きっと挨拶を交わす心地よさを感じたのではないのでしょうか。

さて、港区では保幼小合同研修会として、小学校区ごとに就学前の子どもたちの様子を共有し、小学校入学に向けての接続期の教育に力を入れています。本園では、南山小学校、麻布保育園他、4園が保幼小のグループとして連携・交流をすすめます。先日は、本園5歳児さくら組の保育や低学年の授業を参観した後協議が行われ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が育つ過程や今後の方向性について共有しました。そして、それぞれの立場で行う指導内容を明らかにしました。

幼稚園から小学校以上の学校教育の中では、共通して「生きる力の基礎」となる3つの資質・能力（幼児期では、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」）を育てていきます。その道筋を明らかにすることで、予測困難な社会を生きる子どもたちが必要となる力を身に付けていくようにします。

協議会の中では、「挨拶」ということが話題になりました。小学校では、なかなか挨拶ができない子どもたちの実態に対し、挨拶の指導に重点が置かれています。挨拶は、人と関わる上で大切なことと分かってはいるが、自ら挨拶をする姿につながっていないという話もありました。人に声を掛けるのが恥ずかしいというのは、子どもたちだけではありません。しかし、挨拶をすると互いに心の距離が縮まります。また、生活の中で気持ちが整えられます。子どもたちにとって、心地よい挨拶が交わされる中で育つことが、何より豊かな心が育つ環境となります。南山幼稚園では、朝や帰りの挨拶を大切にするとともに、状況に合わせた挨拶の仕方を身に付けていけるようにしています。

幼稚園では、挨拶が交わされる度に大きな愛情が降り注ぎ、心が安らぎ、温かい気持ちとなる場でありたいです。そのためには、まず大人から・・・と心がけたいものです。



<保幼小合同研修会の様子>